

○**県産酒造好適米**を利用した日本酒需要に対する供給不足の解消、品質の高位平準化が課題

○既存産地に加え、新産地にも酒造好適米の導入を提案し、**試験場と連携**した安定栽培技術の開発や**栽培技術指導を強化**

○この結果、県産酒造好適米の**作付は拡大し、生産量の増加や品質の向上**が図られた。

具体的な成果

1. 酒造好適米の作付拡大

■**山田錦**

46.2ha (H26) ⇒ **102.0ha (H29)**

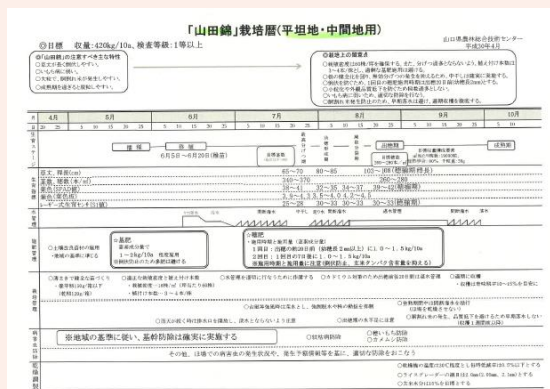
■**西都の雫**

41.4ha (H26) ⇒ **69.8ha (H29)**

(農業団体関係)

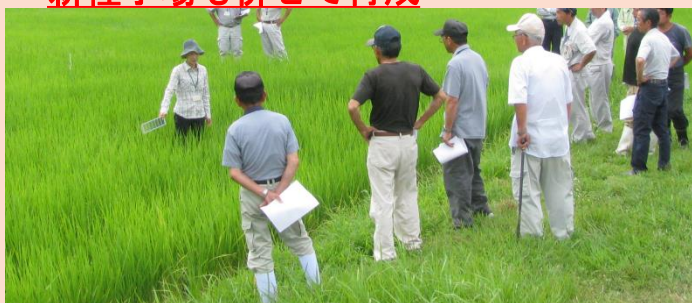
2. 酒造好適米の栽培技術資料の作成

■「山田錦」、「西都の雫」の**平坦部・中間部向けの曆を作成**



3. 新産地、種子場の育成

■既存産地に加え、**県域で産地が育成**  
・安定生産に必要な種子確保のため、**新種子場も併せて育成**



青空講習会の様子

普及指導員の活動

平成26年～

■**酒造好適米の導入提案**

■地域の**酒造会社と協議開始**

酒造会社の求める量・品質の把握

■各地域での**生産体制づくり**

地域により普及指導員・生産者・JA・試験場が一体となった栽培指導を開始

平成27年～29年

■技術指導の強化・徹底

○各地域に**展示・実証ほの設置**

生育状況や今後の管理を看板で周知

○**栽培管理資料「山田錦通信」等の発行**

生育調査結果・管理を随時発行

○**青空講習会の開催**

年2～3回講習会を実施

■**コンペティションの開催協力**

酒造会社の求める品質や、収量等、優秀な生産者を表彰

■**県域重点項目**に設定(平成28年)

各地域での取り組みに係る情報共有化、栽培対策の検討

■**地元酒造会社との連携強化**

生産者と酒造会社の交流の機会を多く設け、連携を強化

普及指導員だからできたこと

・地域に密着した普及指導員だからこそ、**生産者に信頼**され、**短期間で新産地の育成**に貢献

・普及指導員のコーディネート力により、**地元酒造会社と産地の緊密な連携**を促進

山口県

## 酒造好適米の良質・安定生産技術の普及に向けて

活動期間：平成 27～29 年度

### 1. 取組の背景

山口県では、日本酒の需要が高まる中、県産酒造好適米の供給不足や品質が不安定なことが問題となっており、県内酒造業界から良質な酒造好適米の安定供給が求められてきた。

このため、本県の酒造好適米品種であり、倒伏しやすく栽培しにくい「山田錦」や「西都の雫」（県独自品種）について、作付推進をはじめ、良質・安定生産に向けた技術開発やその普及が喫緊の課題となっていた。

### 2. 活動内容（詳細）

#### （1）平成 27 年

各地域で、酒造好適米の作付推進が図られ、試験場と連携した実証ほ（県下 6 箇所）、各地域での展示ほを設置、県域栽培講習会や普及指導員を対象とした研修会などにより、現場への技術指導を強化

#### （2）平成 28 年、29 年

試験場と連携し、生育診断結果に基づいた技術指導の実施、生産拡大に必要な種子確保のための新種子場の育成、県域の重点項目として情報共有化や課題解決に向けた検討などにより新産地の育成を促進



試験場と農林事務所で連携した講習会



現場の生育診断結果に基づき栽培指導

### 3. 具体的な成果（詳細）

#### （1）酒造好適米栽培暦等の技術資料の作成

「山田錦」、「西都の雫」について、平坦部・中間部向けに栽培暦等の技術資料を作成し、これに基づいた技術指導を展開







酒造会社と生産者で事業協同組合設立



酒造会社と産地とで収穫交流会

#### 4. 農家等からの評価・コメント（萩市 中村氏（（農）下田万）

平成 27 年に「山田錦」の栽培を始めた。当初は倒伏させてしまわないか、収量がとれるのだろうかなど、大変不安であった。

しかしながら、萩農林水産事務所や試験場から、水管理や肥培管理など、細かな栽培指導があり、栽培していく自信がついてきた。

今後は面積を拡大し、品質の高い酒造好適米を生産していけるよう、努力していきたい。

#### 5. 普及指導員のコメント（萩農林水産事務所農業部 主任 中村明子）

「山田錦」の産地化に際し、栽培技術や酒造好適米の需要動向について、生産者・関係機関に強い不安感があった。このため、栽培技術の徹底と酒造会社との連携強化が重要と考え、その2つを柱に活動した。

栽培技術の徹底には、管内各地に展示ほを設置し、「山田錦通信」として栽培管理情報の発行、青空講習会を年3回以上行う等、試験場と連携した細やかな指導を行ったことで収量や品質が向上、「山田錦」コンペティションを企画し、成績優秀者の表彰を通じて生産者の意欲高揚も図った。

なお、酒造会社に実際のほ場を見てもらうなど、生産者との連携強化にも努めた結果、平成 29 年には、集落営農法人 11 社と酒造会社 6 社とが事業協同組合を設立、共同で酒米の精米事業を開始するなど、地域ぐるみの取組として実を結ぶことができた。今後も産地強化のため、支援を継続していきたい。

#### 6. 現状・今後の展開等

試験場では現場と連携し、画像やセンサ等を利用し、稲体の生育量と栄養状態の把握に基づく、新しい生育診断技術（S1 値）を開発中である。

この成果を既存の暦等技術資料に盛り込み、さらに普及指導を強化することで、継続して、酒造好適米の良質・安定生産を推進することとしている。